

2017年(平成29年)・第4回定例会・大分市農業委員会委員の任命についての質疑(案)

12月14日

日本共産党の福間健治です。ただいま上程されました議第112号・大分市農業委員会委員の任命について、1点のみ質疑をおこないます。

我が党は、大分市農業委員会委員及び農地利用最適化推進委員の定数を定める条例の制定についての議論のなかで、農業委員が現行の36人から14人と少人数になることによって担当する地域の声も把握しにくくなること。また、全国では子どもたちの食生活について食の大切さ、食べ残しゼロの啓発を行い、地産地消など女性ならではの意見を建議の立案に反映させ、郷土食の伝承など進めている地域もあり、農業の現場では女性が重要な役割を果たしていること。さらに公選制から任命制になることにより、女性の農業委員会委員が出にくくなるのではないかと指摘してきました。

今回の大分市農業委員会委員の任命について、認定農業者が多くを占め、女性委員の任命はありません。

そこで質問しますが、今回、大分市農業委員会委員の任命に当たって、なぜ女性委員の任命がなかったのでしょうか。農林水産部長の見解を求めます。

答弁

要望

3名の女性から、募集はあったけれども、任命にはいたらなかったとのこととあります。

さて、農業とりまく状況はTPP、生産調整・直接支払い制度の廃止など一段と厳しさをましています。大分市農業を基幹産業として保護・育成していくためにも、いま現場で農地を守っている農業者の声を反映していく農業委員の役割は重要です。特に中山間地を担う農業委員の任務は重大であり、女性委員の意見の反映が求められています。

次回の任命のときには、女性代表の委員が登用できるように、努力していただくよう要望

して、質疑を終わります。